平成16年度～平成19年度

村内遺跡発掘調査報告書

２００９

富士見村教育委員会

例　　言

1．本報告書は、平成16年度から平成19年度にかけて国庫補助事業として行なわれた村内遺跡発掘調査（試掘確認調査）報告書である。

2．調査体制は、教育長　浅井多津男（平成16年）、福島正章（平成17年から平成19年）、倉持勝則（平成19年から平成20年）、事務局長　長谷川功（平成16年）、狩野透（平成16年から平成19年）、樺沢幹夫（平成19年）、樺沢武次（平成19年から平成20年）、社会教育係長　椛澤千明（平成16年から平成18年）、狩野眞一（平成18年から平成19年）、小見幸子（平成19年から平成20年）、主任　福田貫之（担当）である。

3．調査に要した経費は、国宝重要文化財等保存整備費補助金、群馬県文化財保存事業費補助金、村費が充てられた。

4．遺構が確認された主な遺跡については調査概要を掲載し、それ以外は調査地点の位置を掲載した。

5．本稿の編集・執筆等は福田が行った。

6．本書に係わる資料、遺物は富士見村教育委員会で保管している。

凡　　例

1．調査地の位置図は国土地理院発行１：50000の地形図「前橋」を用いた。調査地の地形図は富士見村役場発行１：2500の原形図を１：5000に縮小し用いている。

2．地形図の方位は上が北である。トレンチ配置図の方位は一定していない。

3．出土遺物図の縮尺は図中に示した。

目　　次

例言・凡例
第１章　富士見村村内遺跡の概要……1
第２章　調査の方法……1
第３章　富士見村の歴史的環境……1
第４章　試掘・確認調査の概要……4
第５章　調査を実施した遺跡の概要……9

第１章　富士見村村内遺跡の概要

富士見村は群馬県の県庁所在地である前橋市の北側に接し、赤城山西南麓から赤城山山頂までの東西約６㎞、南北約19㎞を村域とする。標高は赤城山の外輪山である黒檜山山頂で標高1,827ｍを最高点とし、南側で前橋市と接する大字原之郷付近では標高150ｍ程となり、標高約450ｍ付近を傾斜変換点として北東部の山岳部と南東部の裾野部に大別される。裾野部は西方の開析谷が発達する丘陵と東方の扇状地（白川扇状地）に区分され、白川扇状地の東側には大胡火砕流堆積面、南側には広瀬川低地帯が広がる。河川は東側から藤沢川、竜ノ口川、赤城白川、細ヶ沢川、法華沢川などが赤城山麓から南西ないし南流する。

本村では、昭和29年に刊行された『富士見村誌』編纂事業に伴い、群馬大学史学研究室の尾崎喜左雄博士による九十九山古墳等を始めとする各古墳の石室の測量、さらに群馬県遺跡台帳作成に伴う分布調査が行われてきた。その後、昭和58年度に行われた土地改良事業に伴う田中田遺跡発掘調査を皮切りに遺跡発掘調査事業が始まり、現在まで多くの遺跡が発見・調査されている。主な発掘調査を列挙すると、田中田遺跡・窪谷戸遺跡・見眼遺跡（昭和58・59年度）、向吹張遺跡・岩之下遺跡・田中遺跡・寄居遺跡（昭和60・61年度）、西上原遺跡・東上原遺跡・米野田遺跡（昭和63年度）、陣場・庄司原遺跡群（平成元～２年度）、広面遺跡（平成２～３年度）、愛宕山遺跡・初室古墳・愛宕遺跡・日向遺跡（平成元～５年度）坂上遺跡（平成３～５年度）、上百駄山遺跡・寺間遺跡・孫田遺跡（平成５～６年度）、小原目遺跡（平成５～９年度）等の発掘調査を行ってきた。また、平成４年度からは国庫補助や県費補助を受けて、「村内遺跡発掘調査」を実施することで、開発事業との調整を図ることとした。その結果、民間開発業者の協力により、旭久保遺跡（平成７年度）、漆窪上漆久保Ｂ遺跡（平成10年度）、旭久保Ｃ遺跡（平成11年度）を始めとする多数の遺跡が発掘調査された。

第２章　調査の方法

富士見村教育委員会は大規模な開発事業に対して村内遺跡発掘調査の対象として、開発事業者から試掘調査依頼書の提出を受けて試掘調査を実施した。試掘調査は、対象となる土地の地形や開発計画を考慮して、トレンチを設定し遺構確認面まで掘削し、遺構・遺物の所在を確認した。試掘トレンチは、調査予定地内に幅約１ｍを基本に設定したが、調査に合わせて適宜拡大する場合もあった。トレンチは重機或いは人力で掘削し、発掘作業員により遺構・遺物確認の精査を行った。その後、土層断面図・トレンチ配置図・遺構分布図、各種写真撮影を実施した。

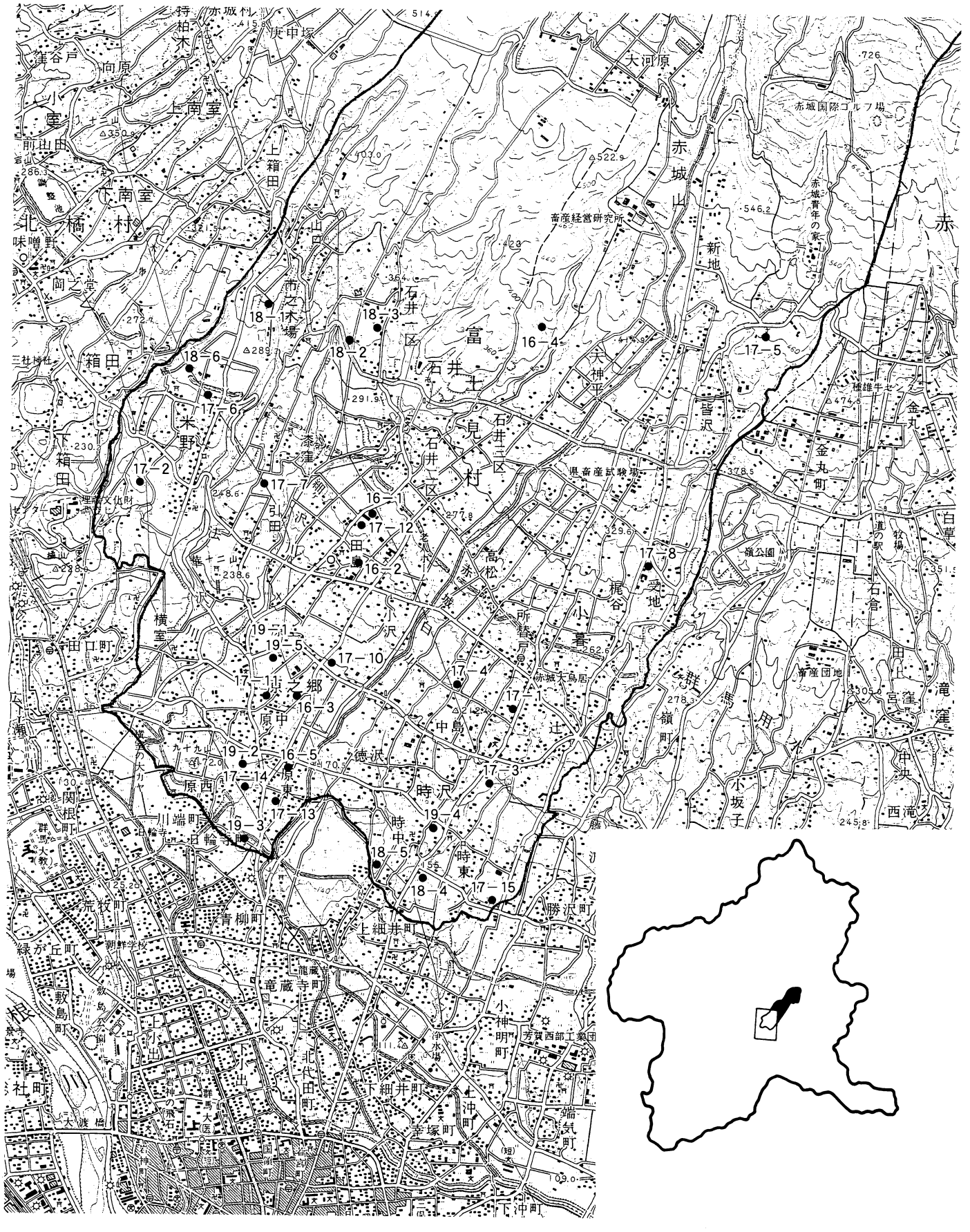
次章以降で各年度の試掘確認調査の概要等をまとめた。４ケ年分であるため、調査地点の番号については最初の数字が年度、次の数字が各年度調査の通し番号とした。また、この番号は試掘調査位置図に対応している。

第３章　富士見村の歴史的環境

ここでは、発掘調査が行われた遺跡を中心に時代順に概観したい。

【旧石器時代】標高約300ｍ前後に位置する小原目遺跡から剝片が、標高約350ｍ前後の小暮東新山遺跡から槍先形尖頭器の製作工程で出るとされる剝片が確認された。また、標高約150ｍ前後に所在する旭久保遺跡の竪穴住居跡内竈構築材より細石刃が１点確認されている。**【縄文時代】**標高約450ｍ付近の傾斜変換点を境とする裾野部の台地上や丘陵上を中心に分布し、数多くの遺跡が存在する。時期的には前期・中期は遺跡数が多く、草創期・早期と後期・晩期は遺跡数が少ない傾向にある。早期の代表的な遺跡として坂上遺跡が挙げられる。坂上遺跡からは押型文土器、撚糸文系土器、鵜ヶ島台式の条痕文系土器が確認されている。前期前葉の二ツ木式期では田中遺跡、久保田遺跡が

代表的な遺跡である。次いで関山式期には田中田遺跡、黒浜式期や有尾式期には由森遺跡があり、住居跡等が確認されている。諸磯式期には数多くの遺跡が調査され、遺物も多く出土している。諸磯ａ式期には白川遺跡、寺間遺跡が、諸磯ｂ式期では愛宕山遺跡、上百駄山遺跡、向吹張遺跡、広面遺跡等から住居跡や土坑が確認され、多くの遺物が出土した。諸磯ｃ式期では広面遺跡が著名であり、諸磯ｂ式からｃ式への変遷を考えるうえで貴重な資料が出土している。中期の代表的な遺跡としては、中期中葉の見眼遺跡や向吹張遺跡が、中期中葉から後葉にかけての旭久保Ｃ遺跡、中期後葉の陣場遺跡が挙げられる。このうち見眼遺跡Ｊ－１号竪穴住居跡からは勝坂式と「焼町土器」、向吹張遺跡Ｊ－８Ａ号住居跡からは「焼町土器」「三原田型深鉢」加曾利ＥＩ式並行の土器が共伴関係で出土し、赤城南麓域の縄文時代中期中葉の土器組成を考えるうえで貴重な資料といえよう。旭久保Ｃ遺跡でも土坑内より「焼町土器」と勝坂式の良好な共伴関係が得られている。後期の代表的な遺跡としては称名寺式期の敷石住居跡が検出された陣場遺跡が挙げられる。**【弥生時代】**田中田遺跡から中期前半と後期後半の土器片が検出されたのみである。**【古墳時代】**『富士見村誌』では約90基におよぶ古墳の存在が報告されているが、現在では耕作等によって削平や縮小されたものが多い。古墳は赤城白川沿いの大字時沢、大字小沢、前橋市に接する大字原之郷、大字横室、渋川市に接する大字米野、大字山口と広範囲に亘って分布している。確認調査された古墳のうち、陣場・庄司原遺跡群からは古墳時代前期に帰属する方形周溝墓５基が検出された。赤城南麓域における横穴式石室導入期の古墳として九十九山古墳がある。九十九山古墳は全長約60ｍを測る前方後円墳であり、石室は全長約8.50ｍの自然石乱石積の無袖型横穴式石室である。終末期の古墳として陣場・庄司原遺跡群の円墳の一つである上庄司原４号墳に注目したい。石室は截石切組積の両袖型横穴式石室であり、石材の表面には朱線が残されている部分も存在していた。集落としては、田中田遺跡が挙げられ、前期から後期までほぼ間断なく継続する大きな集落と推測される。旭久保遺跡は中期から後期にかけて集落が営まれているが、後期には飛躍的に住居数が増加する事に注目したい。旭久保遺跡に代表されるように、古墳時代後期から飛躍的に住居数は増加する。また、坂上遺跡からは牧の可能性がある溝により方形に区画された遺構が検出されている。**【奈良・平安時代】**古墳時代後期からの遺跡数増加がさらに加速し、遺跡数は増加の傾向を続ける。ただし若干古墳時代とは異なり、縄文時代と同様に裾野部の台地上に立地する傾向が見受けられる。多くの遺跡が調査されているが、旭久保遺跡、陣場・庄司原遺跡群から比較的まとまった集落が検出されている。


赤城村
持柏木
庚申塚
大河原
赤城国際ゴルフ場
赤城山
畜産経営研究所
赤城青年の家
上南室
小室
前出田
南室
北橋村
上箱田
南芝木場
石井一区
富士見村
石井二区
天神平
皆沢
種雄牛セン
金丸
金丸町
県畜産試験場
箱田
下箱田
米野
泰津
高松
梶谷
小暮
受地
白草
横公園
石倉
田口町
畜産団地
宮窪
滝窪
横室
小沢
赤城大島尾
所替戸
之郷
原中
中島
辻
徳沢
時沢
原西
原東
関根町
川端町
日輪寺
時中
時東
小坂子
西滝
荒牧町
青柳町
勝沢町
上細井町
緑が丘町
敷島町
竜蔵寺町
小神明町
芳賀西部工業団
北代田町
下細井町
沖町
幸塚町
端気町
下沖町
社町
大渡橋
朝鮮学校
群馬大教
群馬大医
国道
18－1
18－2
18－3
18－6
17－6
17－2
17－7
17－12
16－1
16－2
16－4
17－5
17－8
19－1
19－5
17－10
17－11
16－3
17－4
17－1
16－5
19－2
17－14
17－13
19－3
17－3
19－4
18－5
18－4
17－15

調査地の位置図

第４章　試掘・確認調査の概要

平成16年度

２．田島十二

①所 在 地　富士見村大字田島字十二17番１

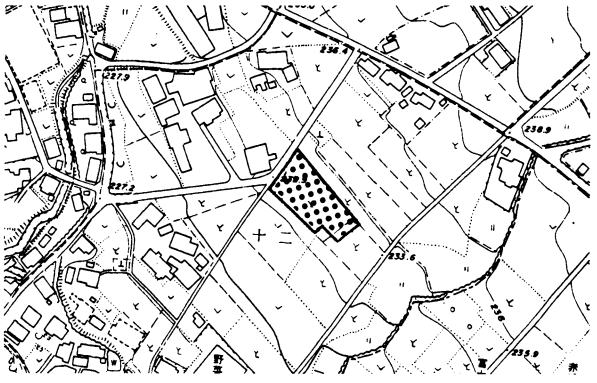
②調査面積　110㎡（開発面積1,682㎡）

③調査原因　共同住宅

④調査期間　平成16年６月11日

⑤調査方法　南北を基本として地形に沿ってトレンチを２本設定し、重機を用いて掘削を行ない遺構の確認調査を行なった。

⑥調査結果　遺構・遺物ともに検出されなかった。



３．原之郷鰻沢

①所 在 地　富士見村大字原之郷字鰻沢1432番１

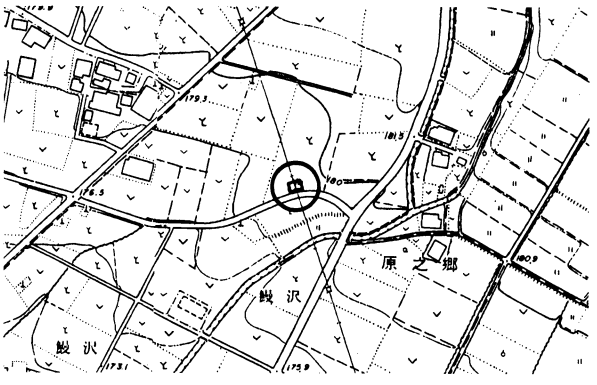
②調査面積　24㎡（開発面積67㎡）

③調査原因　送電線建設

④調査期間　平成16年10月18日

⑤調査方法　南北に２本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削を行ない遺構の確認調査を行なった。

⑥調査結果　流れ込みと思われる遺物は検出されたが、明瞭な遺構は確認されなかった。



５．原之郷鼠替戸

①所 在 地　富士見村大字原之郷字鼠替戸852番１

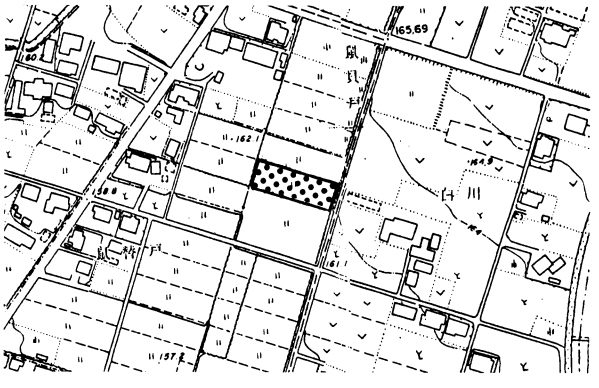
②調査面積　66㎡（開発面積975㎡）

③調査原因　分譲用地造成

④調査期間　平成17年３月８日

⑤調査方法　東西に２本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削を行ない遺構の確認調査を行なった。

⑥調査結果　遺構・遺物ともに検出されなかった。



平成17年度

１．小暮東所替戸

①所 在 地　富士見村大字小暮字東所替戸274番 外

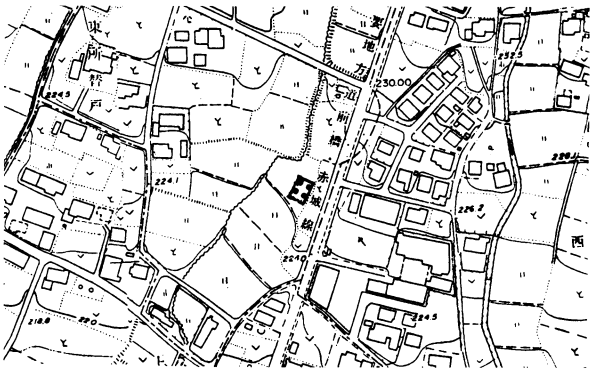
②調査面積　９㎡（開発面積147㎡）

③調査原因　携帯電話基地局建設

④調査期間　平成17年５月20日

⑤調査方法　南北４本のトレンチを設定し、人力で掘削し、遺構確認調査を行った。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



2．米野丸山

①所 在 地　富士見村大字米野字丸山837番11

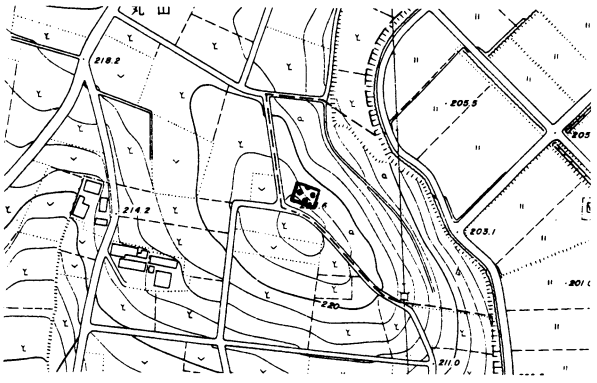
②調査面積　17㎡（開発面積191㎡）

③調査原因　携帯電話基地局建設

④調査期間　平成17年５月23日

⑤調査方法　東西２本のトレンチを設定し重機を用いて掘削し、遺構確認調査を行った。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



3．時沢赤坂

①所 在 地　富士見村大字時沢字赤坂1747番12

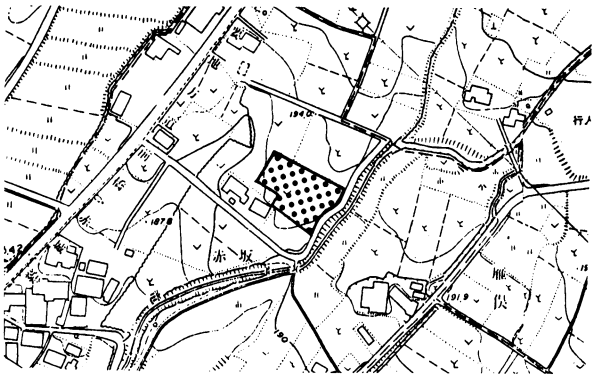
②調査面積　148㎡（開発面積1,714㎡）

③調査原因　宅地造成

④調査期間　平成17年５月24日

⑤調査方法　南北１本、東西３本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削し、遺構の確認調査を行った。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



4．時沢合田

①所 在 地　富士見村大字時沢字合田2852番１外

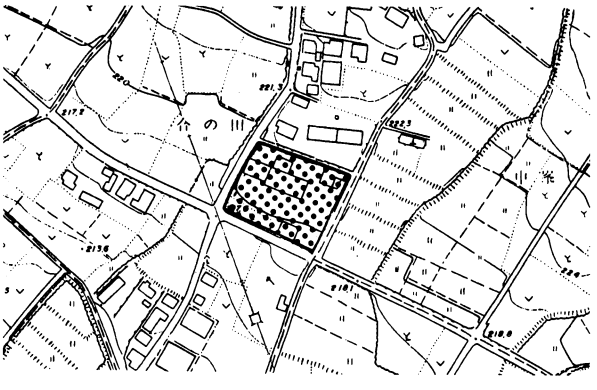
②調査面積　75㎡（開発面積3,471㎡）

③調査原因　宅地造成

④調査期間　平成17年６月21日

⑤調査方法　東西５本のトレンチを設定し、重機を用いて遺構確認調査を行なった。

⑥調査結果　遺構・遺物ともに検出されなかった。



5．皆沢中島

①所 在 地　富士見村大字皆沢字中島317番１外

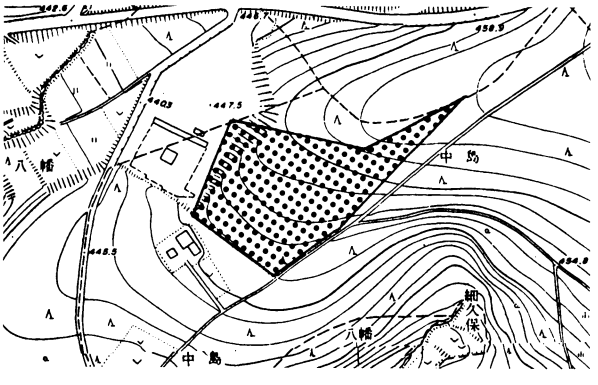
②調査面積　135㎡（開発面積6,063㎡）

③調査原因　宅地造成

④調査期間　平成17年６月23日

⑤調査方法　道路予定地部分のみ東西１本、南北１本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削し遺構確認調査を行った。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



6．米野見眼

①所 在 地　富士見村大字米野字見眼395番

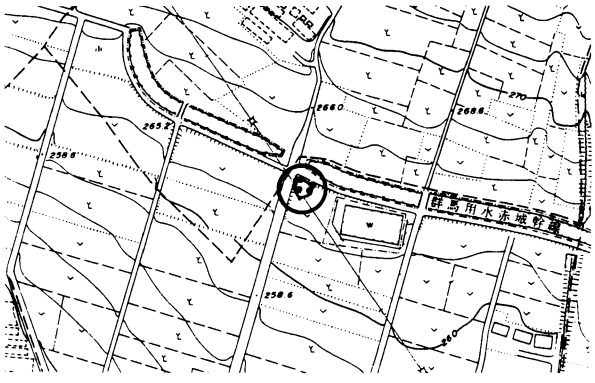
②調査面積　7㎡（開発面積146㎡）

③調査原因　送電線建設

④調査期間　平成17年7月13日

⑤調査方法　地形に沿って南北2本のトレンチを設定し重機を用いて掘削し遺構の確認調査を行った。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



7．漆窪宿原

①所 在 地　富士見村大字漆窪字宿原293番1

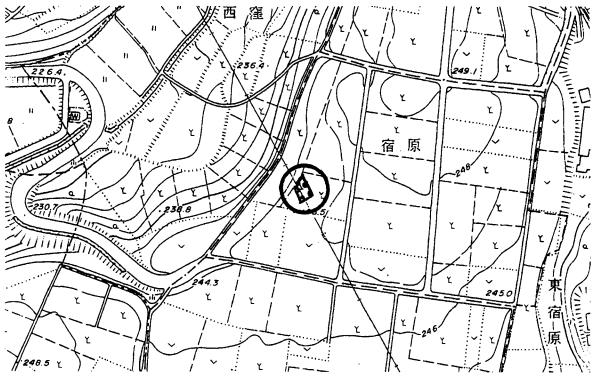
②調査面積　21㎡（開発面積164㎡）

③調査原因　送電線建設

④調査期間　平成17年7月13日

⑤調査方法　地形に沿って南北2本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削し遺構の確認調査を行った。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



8．小暮受地

①所 在 地　富士見村大字小暮字受地1389番1

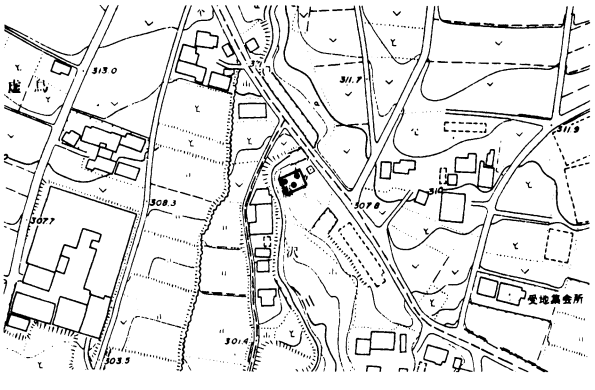
②調査面積　10㎡（開発面積195㎡）

③調査原因　携帯電話基地局建設

④調査期間　平成17年7月13日

⑤調査方法　東西方向に1本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削し、遺構の確認調査を行った。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



11．原之郷小貝戸

①所 在 地　富士見村大字原之郷字小貝戸1624番外

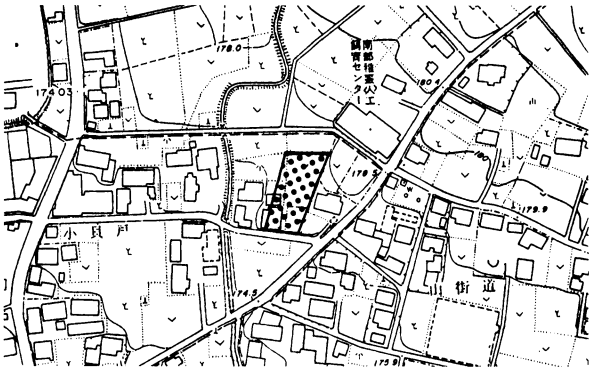
②調査面積　230㎡（開発面積1,297㎡）

③調査原因　宅地造成

④調査期間　平成17年9月16日

⑤調査方法　南北方向に2本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削し遺構確認を行った。

⑥調査結果　若干の遺物は出土したが何れも流れ込みのものと思われ、遺構は確認されなかった。



12．田島新井

①所 在 地　富士見村大字田島字新井868番

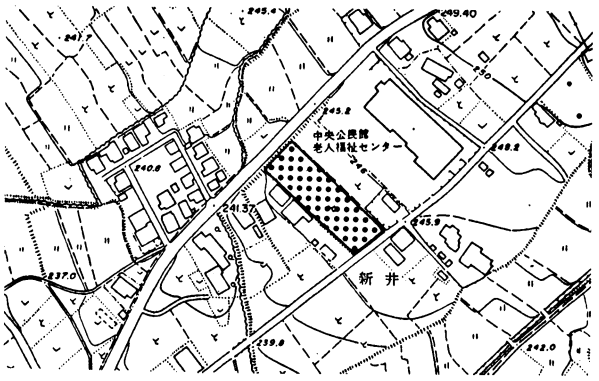
②調査面積　225㎡（開発面積2,308㎡）

③調査原因　土砂採取

④調査期間　平成17年10月27日

⑤調査方法　東西方向に３本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削し、遺構確認を行った。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。中央付近は谷地状に浅く窪む地形であることが判明した。



14．原之郷東原

①所 在 地　富士見村大字原之郷字東原1001番１

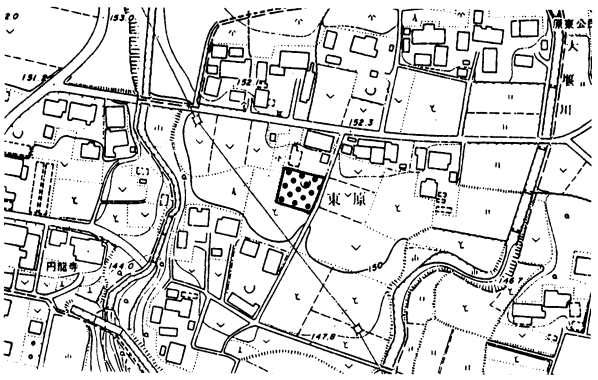
②調査面積　51㎡（開発面積655㎡）

③調査原因　共同住宅建設

④調査期間　平成17年11月22日

⑤調査方法　南北１本、東西２本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削し遺構の確認調査を行った。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



平成18年度

１．山口中子

①所 在 地　富士見村大字山口字中子268番１

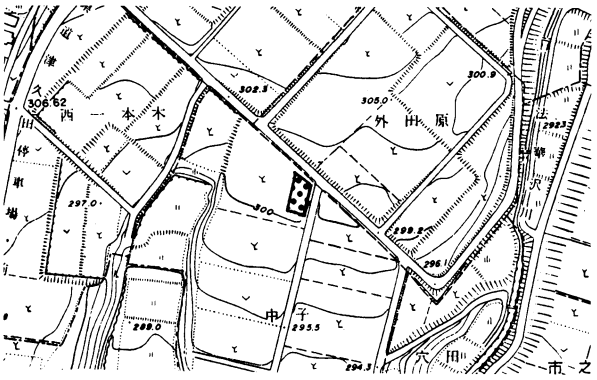
②調査面積　18㎡（開発面積197㎡）

③調査原因　携帯電話基地局建設

④調査期間　平成18年４月19日

⑤調査方法　南北に２本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削し、遺構確認調査を行なった。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



３．石井下樺沢

①所 在 地　富士見村大字石井字下樺沢1416番２

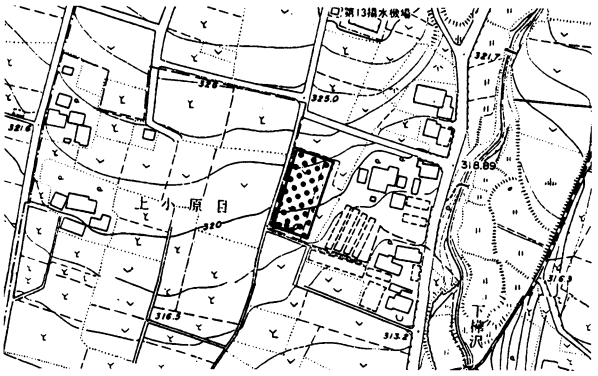
②調査面積　101㎡（開発面積1,284㎡）

③調査原因　共同住宅建設

④調査期間　平成18年４月19日

⑤調査方法　南北に２本のトレンチを設定し、重機を用いて掘削し、遺構の確認調査を行なった。

⑥調査結果　遺構・遺物は確認されなかった。



6．米野西上原

①所 在 地　富士見村大字米野字西上原463番11外

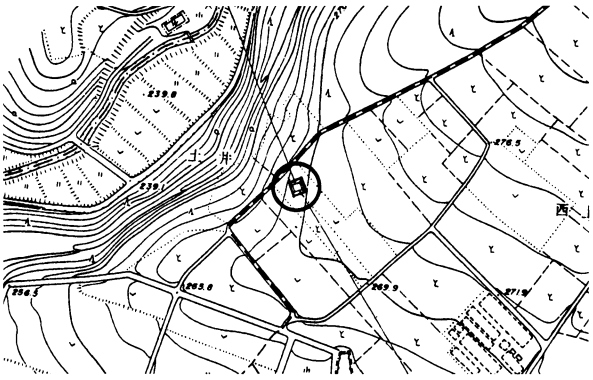
②調査面積　4㎡（開発面積50㎡）

③調査原因　送電線建設

④調査期間　平成18年11月14日

⑤調査方法　南北に２本のトレンチを設定し、人力を用いて掘削し、遺構の確認調査を行なった。

⑥調査結果　遺構・遺物は確認されなかった。



平成19年度

1．原之郷鎌塚

①所 在 地　富士見村大字原之郷字鎌塚2174番３

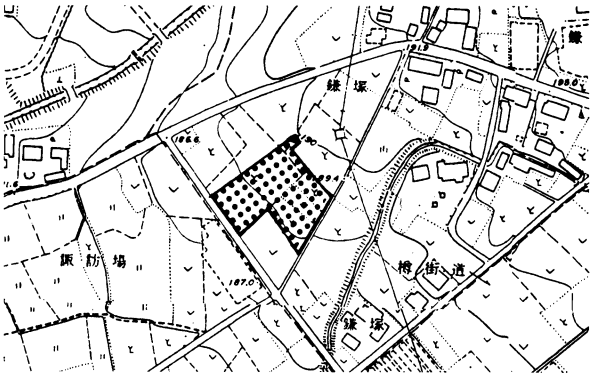
②調査面積　108㎡（開発面積2,822㎡）

③調査原因　宅地造成

④調査期間　平成19年４月24日

⑤調査方法　地形に沿って南北に２本のトレンチを設定し、重機を用いて遺構の確認調査を行なった。

⑥調査結果　遺構は検出されなかったが、流れ込みによるものと思われる平安時代の土師器片が数点出土した。



4．時沢大角谷戸

①所 在 地　富士見村大字時沢字大角谷戸703番１外

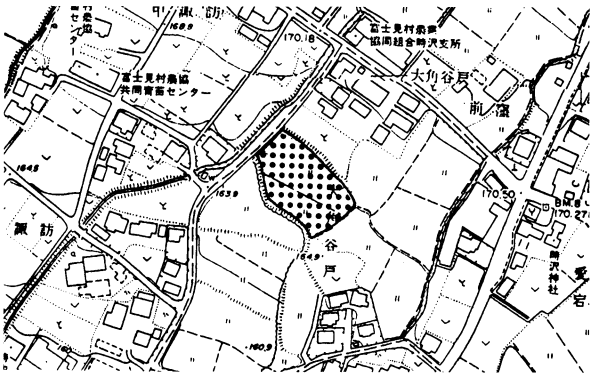
②調査面積　92㎡（開発面積2,601㎡）

③調査原因　医療施設建設

④調査期間　平成19年９月13日

⑤調査方法　東西に２本のトレンチを設定し、重機を用いて遺構の確認調査を行なった。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



5．原之郷鎌塚

①所 在 地　富士見村大字原之郷字鎌塚2175番１

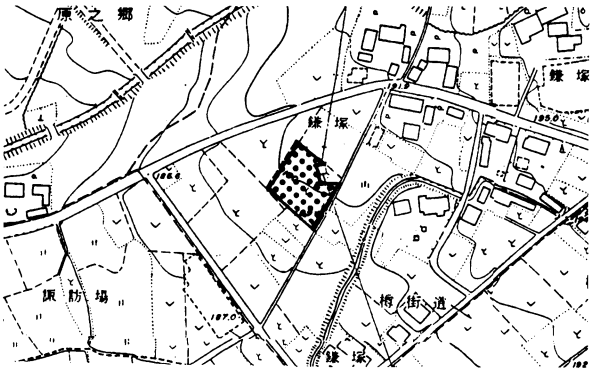
②調査面積　51㎡（開発面積1,276㎡）

③調査原因　宅地造成

④調査期間　平成19年10月22日

⑤調査方法　東西１本、南北１本のトレンチを設定し、重機を用いて遺構の確認調査を行なった。

⑥調査結果　遺構・遺物は検出されなかった。



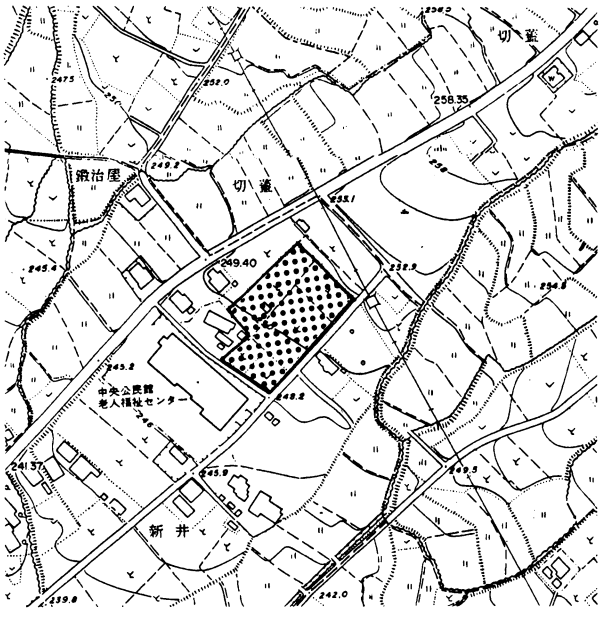
第５章　調査を実施した遺跡の概要

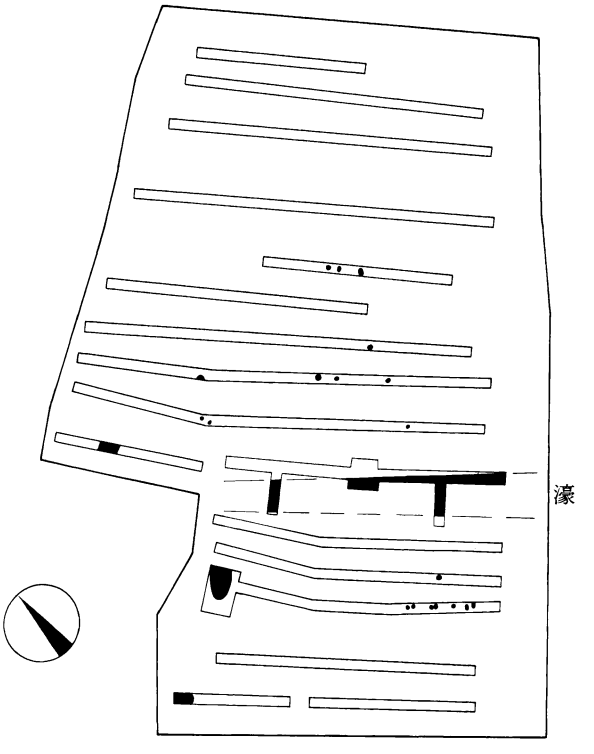
16－１．田島新井遺跡

①所 在 地　富士見村大字田島字新井856-１外　　③調査原因　駐車場用地造成

②調査面積　504㎡（開発面積2,999㎡）　　④調査期間　平成16年５月24・25日、７月14～16日

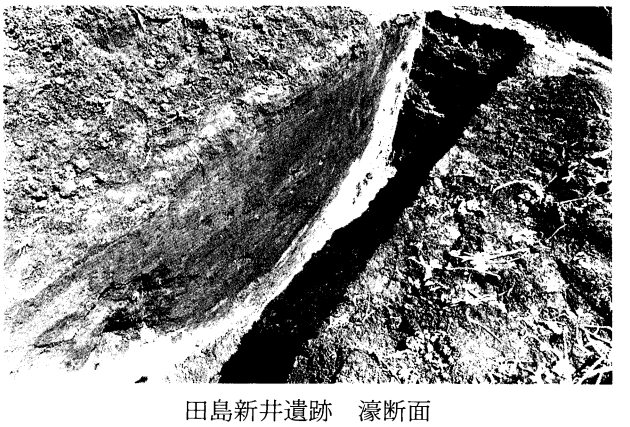
田島新井遺跡は、富士見村大字田島字新井に所在し、標高約300mを測る緩斜面に位置する。東方約50m付近に小河川が流下し、浅い開析谷を形成している。本遺跡と小河川の比高差は約３mである。また、本遺跡は、山崎一氏の「群馬古城塁史の研究」で紹介されている周知の遺跡である。周辺ではこれまで２件の発掘調査を行っており、中世と思われる土堀が確認されている。平成16年に富士見村役場企画課による駐車場用地造成に先立ち試掘調査を行った。その結果、南側で東西に走行する上幅3.4m下幅0.8mの断面「Ｖ」字状の濠、地下式坑、柱穴等が確認された。また、北側では柱穴が多数検出された。試掘調査の結果を基に協議を行ったところ、工事内容に変更はできず、また大規模な掘削を伴うため本調査を実施した。





トレンチ配置図　　Ｓ＝１：750

田島新井遺跡



田島新井遺跡　濠断面

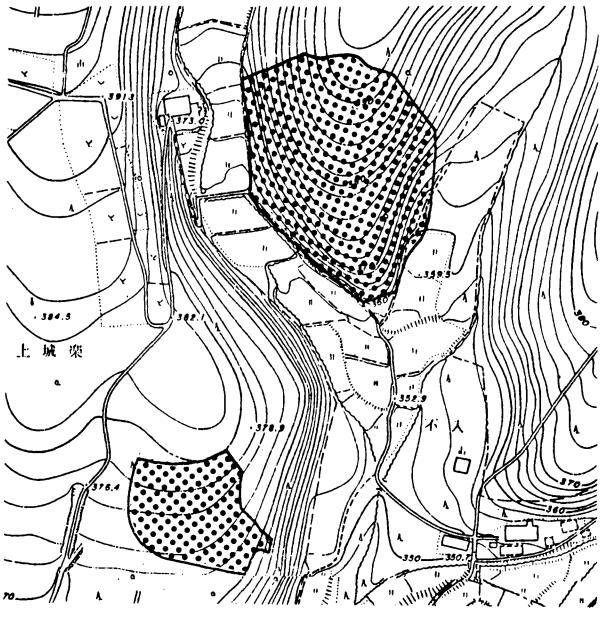
16－4．石井上城楽遺跡

①所 在 地　富士見村大字石井字上城楽2436番１ 外　　④調査期間　平成16年10月21・22日

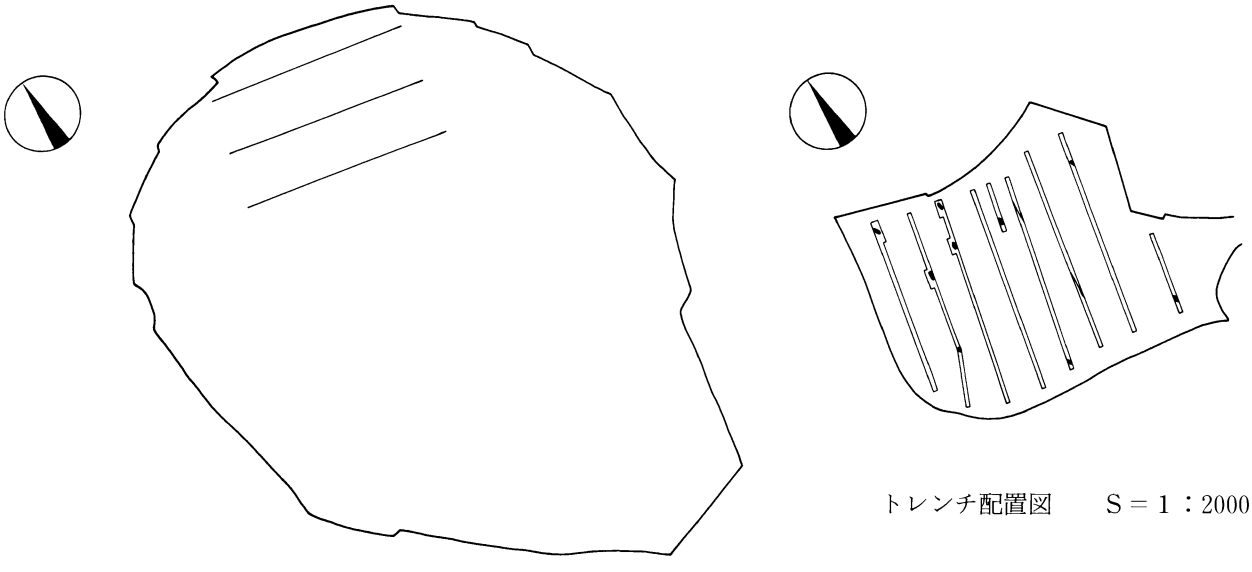
②調査面積　971㎡（開発面積48,532㎡）　　平成17年８月８・９日

③調査原因　防災ダム建設

石井上城楽遺跡は富士見村大字石井字上城楽に所在し、標高約380m前後の尾根に位置する。周囲は小河川による浸食を受けて発達した放射谷が広がっている。事業の都合により、平成16年度と平成17年度に試掘調査を実施した。平成16年度は東西３本のトレンチを設定し、土層の堆積状況を観察しながら掘削し精査を行なったが顕著な遺構・遺物は確認されなかった。平成17年度は南北９本のトレンチを設定し、前年度同様に掘削・精査を行ない、時期不詳の溝跡と陥し穴を検出した。試掘調査の結果を基に遺跡保存に関する協議を行なったが、工事内容に変更はできないため平成18年度に本調査を行なった。



石井上城楽遺跡



トレンチ配置図　　S＝1：2000

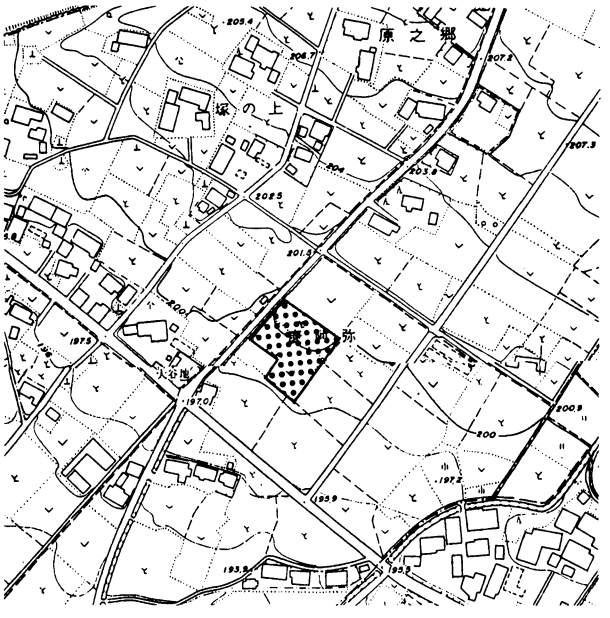
17―10　原之郷慶阿弥遺跡

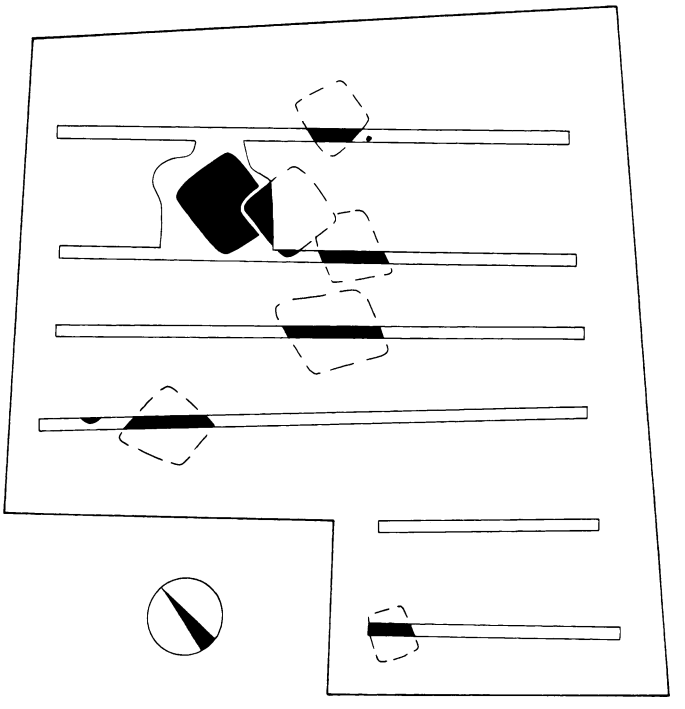
①所 在 地　富士見村原之郷字慶阿弥2462番１　　③調査原因　宅地造成

②調査面積　280㎡（開発面積2,283㎡）　　④調査期間　平成17年８月29日

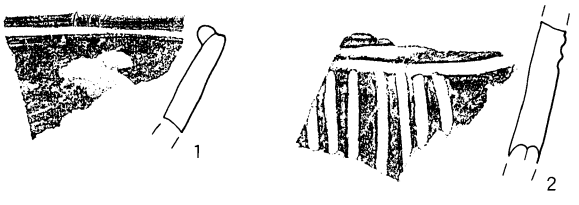
原之郷慶阿弥遺跡は富士見村大字原之郷字慶阿弥に所在し、標高約195mを測る緩斜面に位置する。東方約200m付近には赤城白川が南下する。現地調査の際に、多少の遺物の散布が見受けられたため試掘調査を実施した。トレンチは東西方向に６本設定し、土層の堆積状況を確認しながら表土除去、遺構確認面までの掘削を行なった。その結果、１トレンチと２トレンチを中心に竪穴住居遺構が確認されため、拡張を行なった。検出された遺構は現地表下約40cmに存在し、盛り土による開発であるため現状保存が可能と判断された。

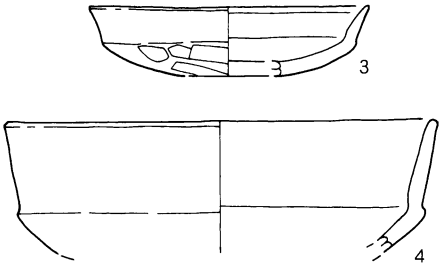
出土土器　１は口唇部に浅い沈線を巡らす。２は横位沈線と縦位沈線で文様を描出する。１、２ともに縄文時代後期に帰属する。３は復元実測により口径11cm、器高2.7cmを測り、口縁部は横撫で、体部は篦削り。７世紀前半。４は復元実測により口径17cmを測り、口縁部は横撫で、体部は篦削り。６世紀後半。





トレンチ配置図　　S＝１：600





原之郷慶阿弥遺跡出土遺物　　S＝１：３

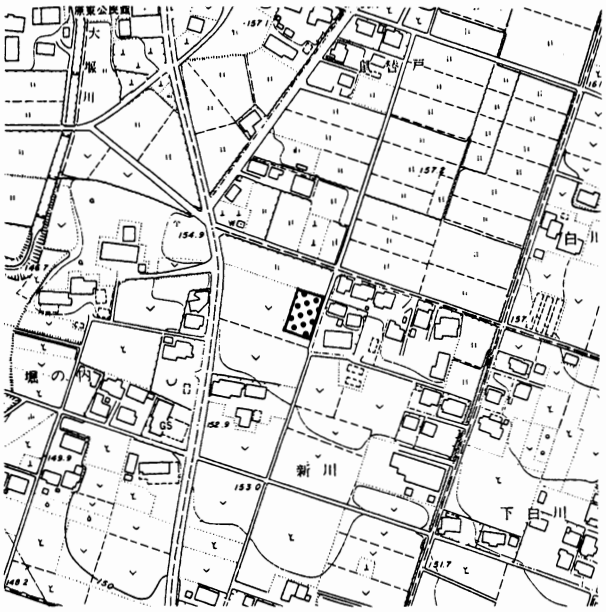
原之郷慶阿弥遺跡

17―13　原之郷新川遺跡

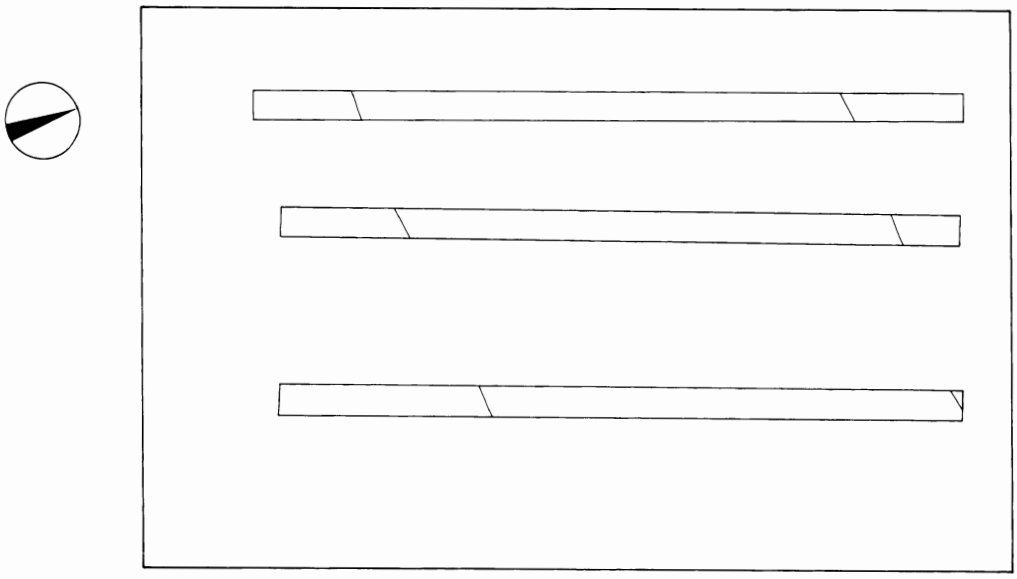
①所 在 地　富士見村大字原之郷字新川685番７　　③調査原因　宅地造成

②調査面積　69㎡（開発面積530㎡）　　④調査期間　平成17年11月２日

原之郷新川遺跡は富士見村大字原之郷字新川に所在する。北西約20m付近には昭和22年のカスリン台風による浸食を受け陥没している個所が存在している。原之郷新川遺跡付近もカスリン台風による被害が著しい場所と認識されていたが、南西に縄文時代中期中葉の集落である旭久保Ｃ遺跡や古墳時代、平安時代の集落である旭久保遺跡が存在していることから試掘調査を実施した。トレンチは南北方向に３本設定し表土除去と遺構確認面の精査を行なった。その結果、北方付近ではカスリン台風侵食による砂層が検出されたが中央より南側では安定したローム台地が検出され、縄文時代前期に属する遺物包含層が確認された。調査結果を基に協議を行なったところ、盛り土を前提とした開発であり、遺構保護層も確保されることから現状保存が可能と判断された。

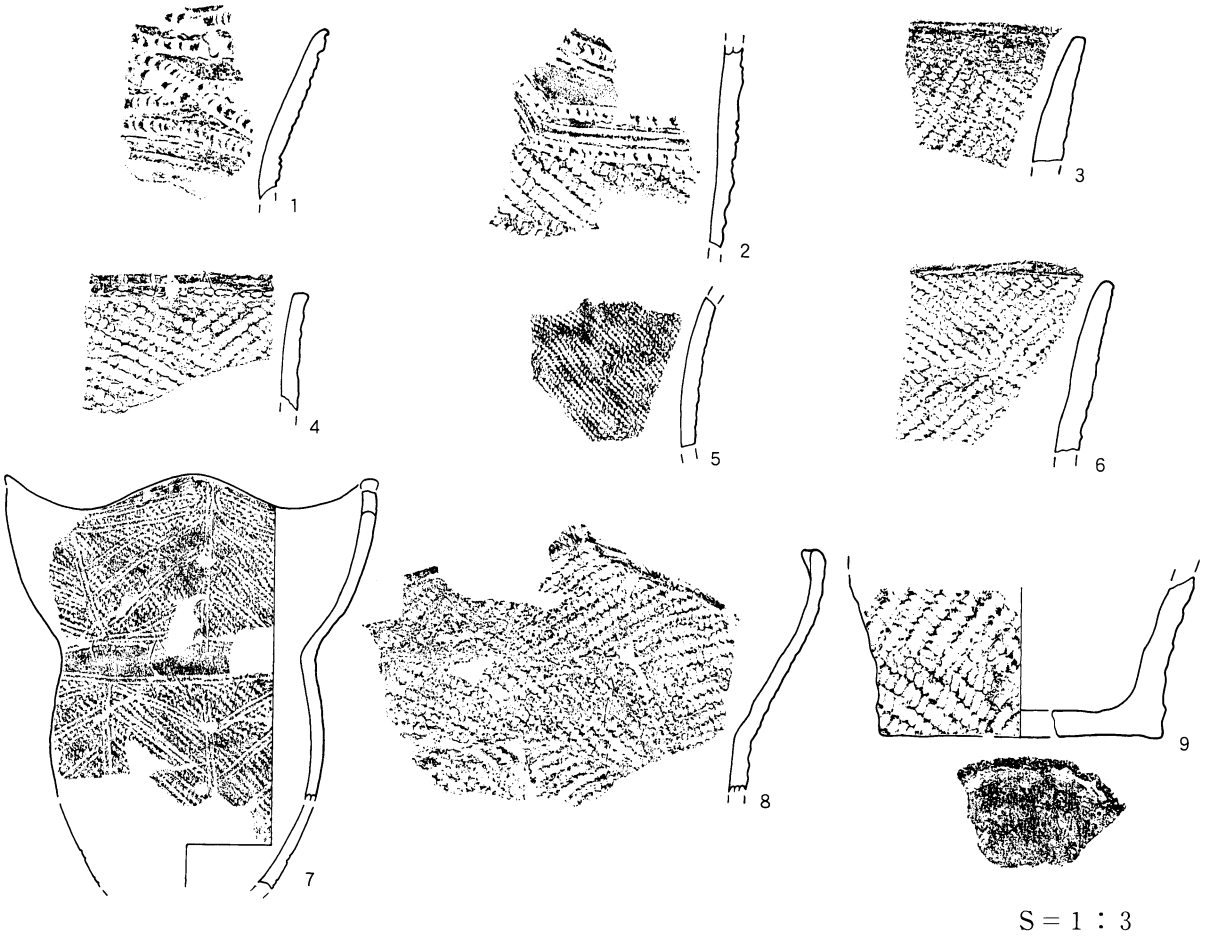


原之郷新川遺跡



トレンチ配置図　　Ｓ＝１：250

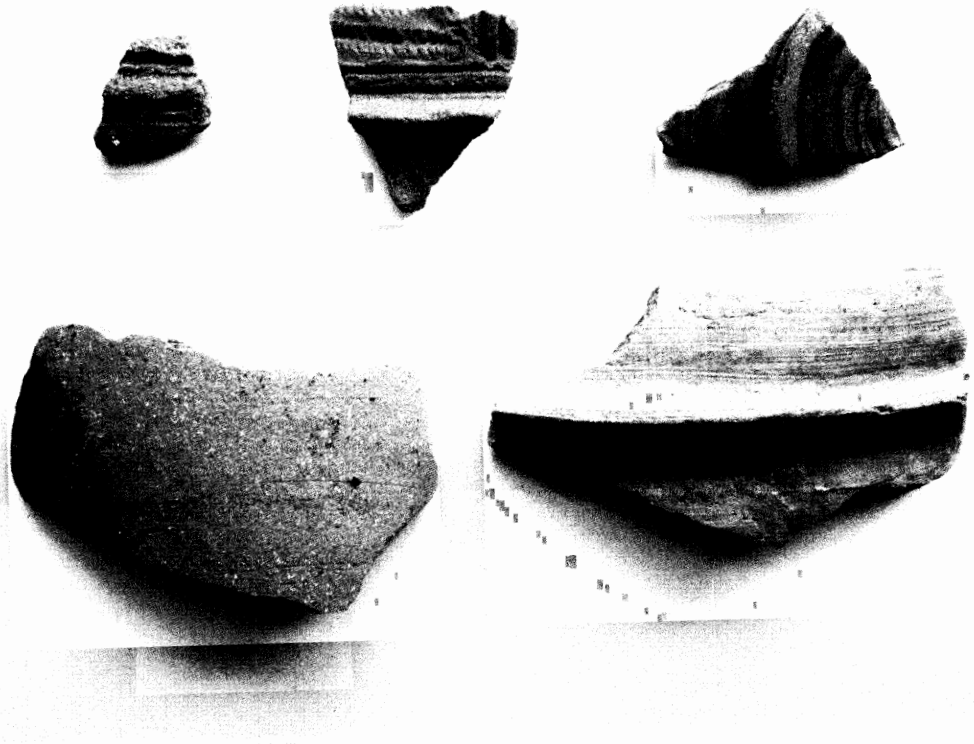
出土土器　1は波状を呈する口縁部破片であり、爪形文により菱形の文様を描出する。2は平行沈線と爪形文により菱形の文様を描出する。体部はLR縄文。3はLR、RLによる羽状縄文が施された口縁部片。口唇部は角頭状を呈する。4はRL、LRによる羽状縄文が施された口縁部片。口唇部は角頭状を呈する。5は原体が緻密なRL縄文が施された胴部片。内面は丁寧な磨きが施される。6はRL、LRによる羽状縄文が施された口縁部片。7は4単位を呈する波状口縁から胴部にかけての破片。RL縄文施文後に、横位の半截竹管により口縁部文様帯、胴部文様帯に区分される。各文様帯内は半截竹管による平行沈線が縦位に垂下し区画文を構成し、区画内は斜位の半截竹管による平行沈線によりモチーフを描出する。8は小突起のより双波状口縁を呈する口縁部片。波状の頂点には小突起を付す。LR縄文により羽状縄文が施される。繊維混入が顕著である。9はやや上げ底の底部片。LR、RLによる羽状縄文が施される。1、2は有尾式。3～6は黒浜式か。7は諸磯a式。



原之郷新川遺跡出土遺物

S＝1：3
7のみ
S＝1：4

原之郷新川遺跡遺物写真



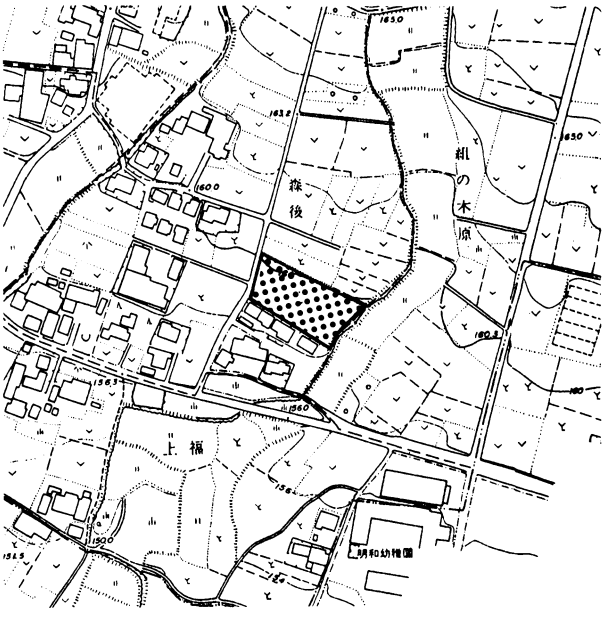
原之郷後原遺跡遺物写真

17―15　時沢森後遺跡

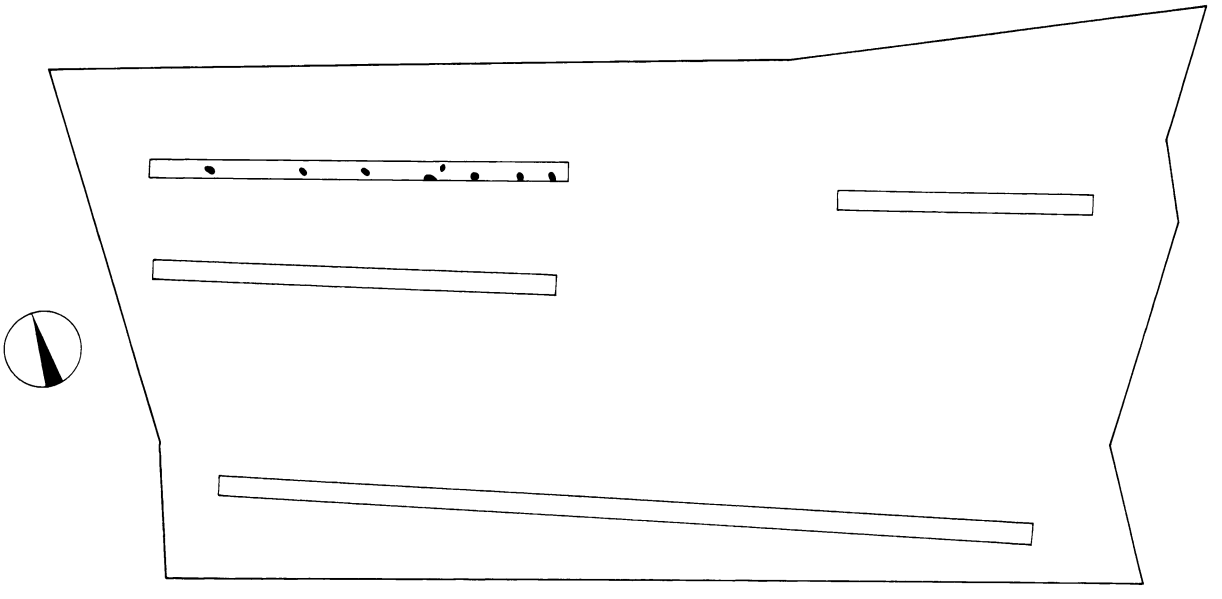
①所 在 地　富士見村大字時沢字森後1036　　③調査原因　宅地造成

②調査面積　189㎡（開発面積2,330㎡）　　④調査期間　平成18年３月９日

時沢森後遺跡は富士見村大字時沢字森後に所在し、南に向かって緩傾斜する台地の西端に位置する。現地確認の際に若干の土器片の散布が確認されたため、試掘調査を実施した。トレンチは東西方向を基調に４本設定し、表土除去と遺構確認面の精査を行なった。その結果、現地表下80cmから竪穴住居跡や柱穴が検出された。試掘調査の結果を基に事業者と協議を行なったところ、盛り土による現状保存の措置を執ることになった。



時沢森後遺跡



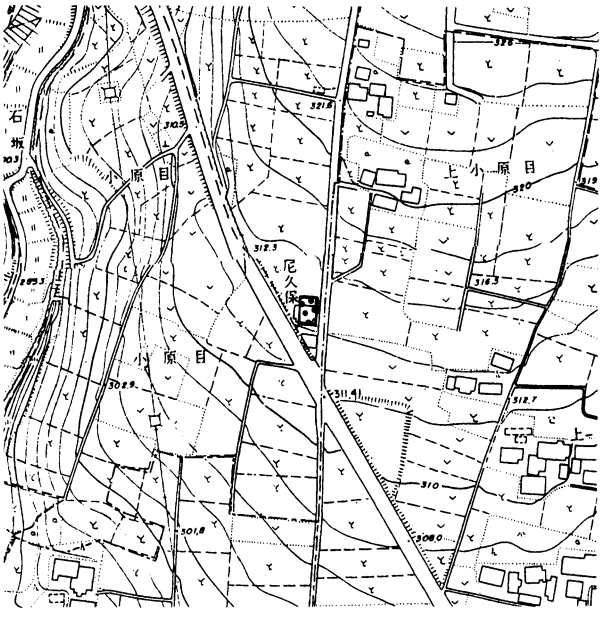
トレンチ配置図　　S＝1：500

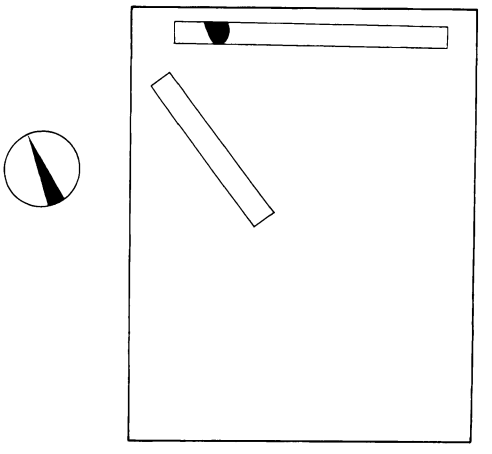
18－2　小原目遺跡

①所 在 地　富士見村大字市之木場字尼久保232番１　　③調査原因　携帯電話基地局建設

②調査面積　20㎡（開発面積221㎡）　　④調査期間　平成18年４月19日

小原目遺跡は富士見村大字市之木場字尼久保に所在し、丘陵性台地に位置する。南端に縄文時代集落及び古墳・平安時代集落が検出された小原目遺跡が存在しているため同一の遺跡とした。トレンチは２本設定し、表土除去を行ない土層の堆積を確認しながら遺構確認面まで掘削を行なった。その結果、土坑が検出されたが掘削の及ぶ範囲外であるため、現状保存の措置を執った。





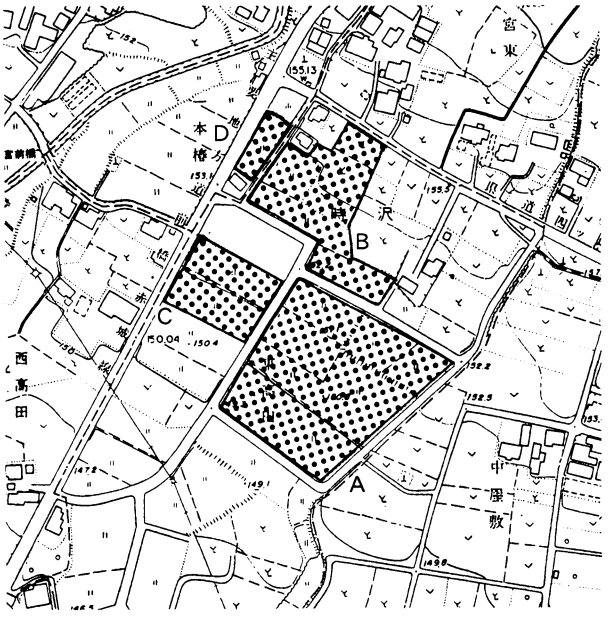
トレンチ配置図　　Ｓ＝１：300

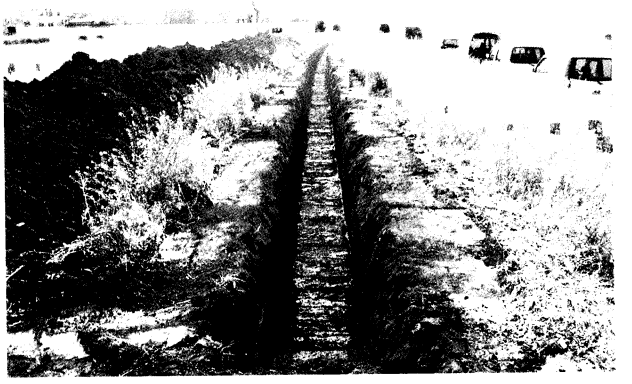
18－4　時沢宮東遺跡

①所 在 地　富士見村大字時沢字東高田791 外　　③調査原因　大型店舗建設

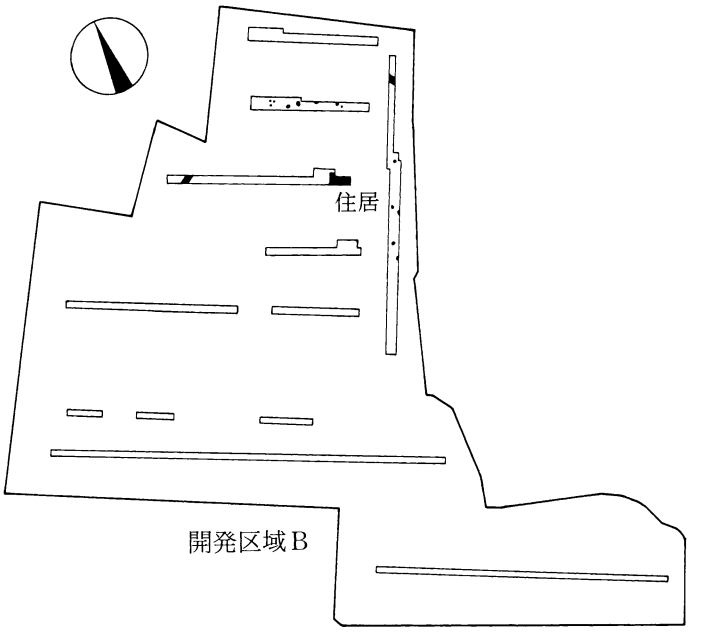
②調査面積　1,241㎡（開発面積19,725㎡）　　④調査期間　平成18年４月21日～５月２日

時沢宮東遺跡は富士見村大字時沢字宮東の沖積台地上に位置する。開発地西端には平安時代の集落が検出された時沢西高田遺跡が存在している。開発区域を基に、便宜上４地区に分けてトレンチ調査を実施した。開発区域Ａは東西を基本に10本のトレンチを設定した。その結果、東から西にかけて傾斜する谷地状の地形が大半を占めていることが判明したが東側にローム台地の西端が確認され、現地表下約60cmから南北に垂下する上端約3.5mを測る時期不詳の大溝が検出された。開発区域Ｂは東西11本、南北１本のトレンチを設定した。その結果、北側では安定したローム台地が検出され、現地表下約30cmから竪穴住居や柱穴が確認されたが、南側及び南東側では開発区域Ａと同様な谷地状の地形であることが判明した。開発区域Ｃは東西４本のトレンチを設定した。その結果、東端は開発区域Ａに向かって緩傾斜し、トレンチの中央付近では馬の背状のローム台地であり西に向かって傾斜する起伏に富んだ旧地形であることが判明した。また、現地表下約110cm付近で、東端から中央にかけて柱穴が検出された。開発区域Ｄは南北１本のトレンチを設定した。その結果、開発区域Ｂの南東側から傾斜する谷地状地形であることが判明したが、遺構は検出されなかった。度重なる協議の結果、基礎工事や防火槽部分及び切り土の範囲内は発掘調査を行なうことで合意を得て、本調査を実施した。

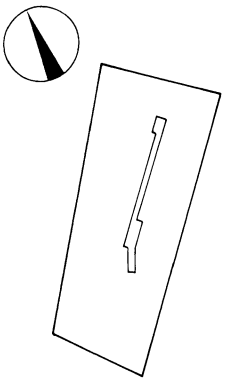




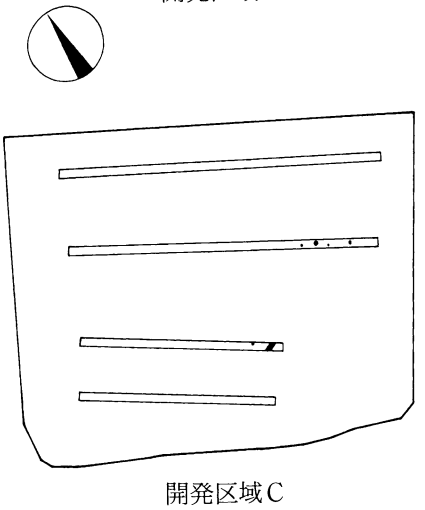
時沢宮東遺跡



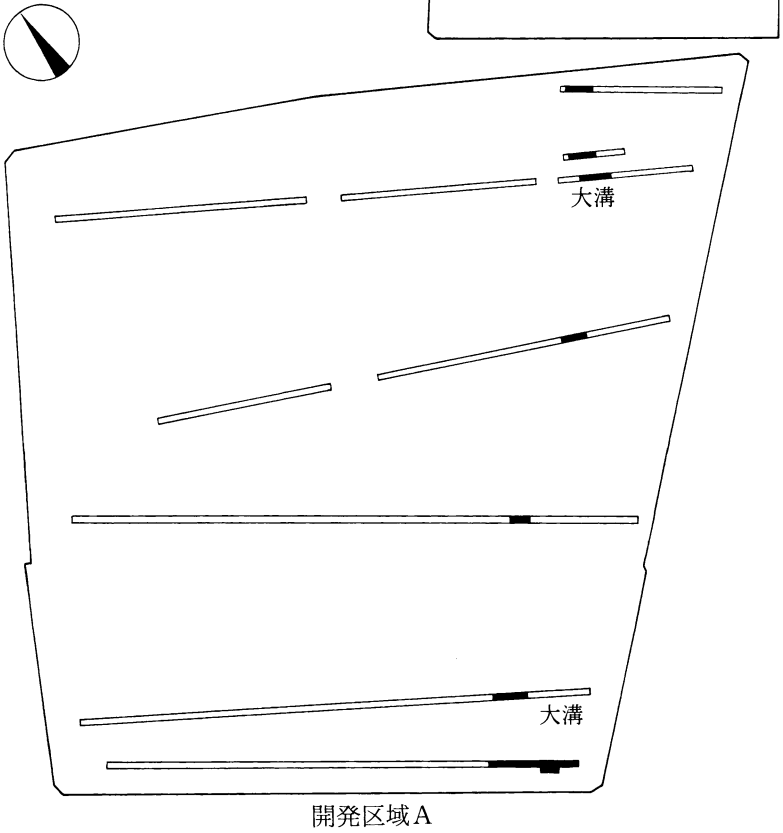
開発区域B



開発区域D



開発区域C



開発区域A

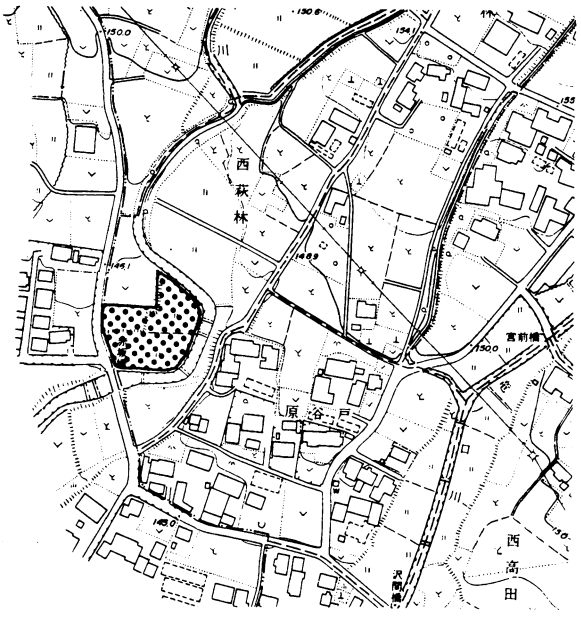
トレンチ配置図　　S＝1：1200

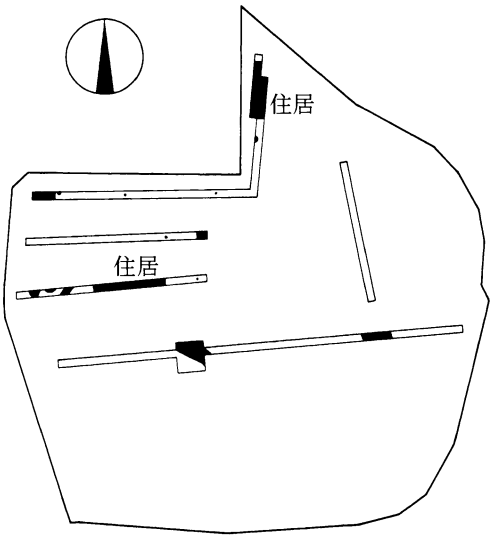
18－5　時沢西萩林遺跡

①所 在 地　富士見村大字時沢字西萩林219番１ 外　　③調査原因　宅地造成

②調査面積　189㎡(開発面積2,986㎡)　　④調査期間　平成18年６月２日

時沢西萩林遺跡は富士見村大字時沢字西萩林、観音川右岸に位置する。付近には前述した時沢宮東遺跡の他に、東方約200m付近には平安時代の集落が確認された時沢西高田遺跡などが存在している。現状で南側は低く、北側との比高差は約１mを測る。トレンチは東西４本南北２本設定し、表土除去を行ない土層の堆積状況を確認しながら遺構確認面まで掘削し、その後精査を行なった。その結果、調査地中央から南側では遺構の検出は見受けられなかったが、北側で竪穴住居跡や柱穴が検出された。地元の古老によると、戦後間もなく南側は土を抜いたという事であるので、集落の範囲は南側にも及ぶものと思われる。試掘調査の結果を基に協議を行なったところ、削平が行なわれる北側部分の調査で合意を得て、本調査を実施した。





トレンチ配置図　　S＝１：1000

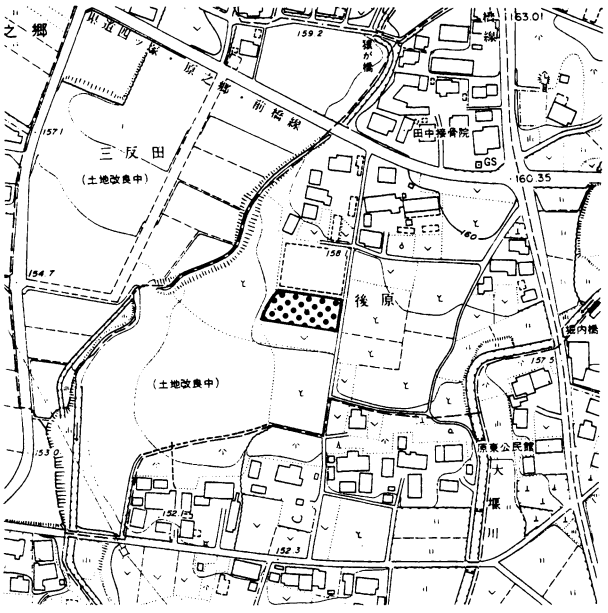
19－2　原之郷後原遺跡

①所 在 地　富士見村大字原之郷字後原1054番１　　③調査原因　宅地造成

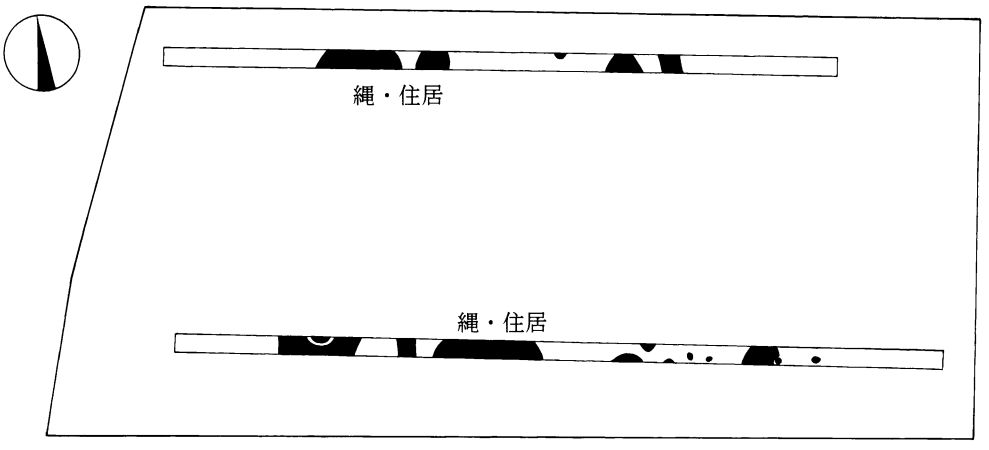
②調査面積　75㎡（開発面積1,044㎡）　　④調査期間　平成19年５月31日

原之郷後原遺跡は、富士見村大字原之郷字後原に所在し、緩やかに傾斜する沖積台地上に位置する。現地踏査を行なった際に遺物が濃密に散布されていることから試掘調査を実施した。トレンチは東西２本設定し、表土除去を行ない遺構確認面まで掘削し精査を行なった。その結果、現地表下約60cmから縄文時代中期の薄い遺物包含層と縄文時代と推測される竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡、時期不詳の柱穴や溝などが検出された。試掘調査の結果を基に協議を行なったところ、平成21年４月以降に本調査を行なうことで合意を得た。

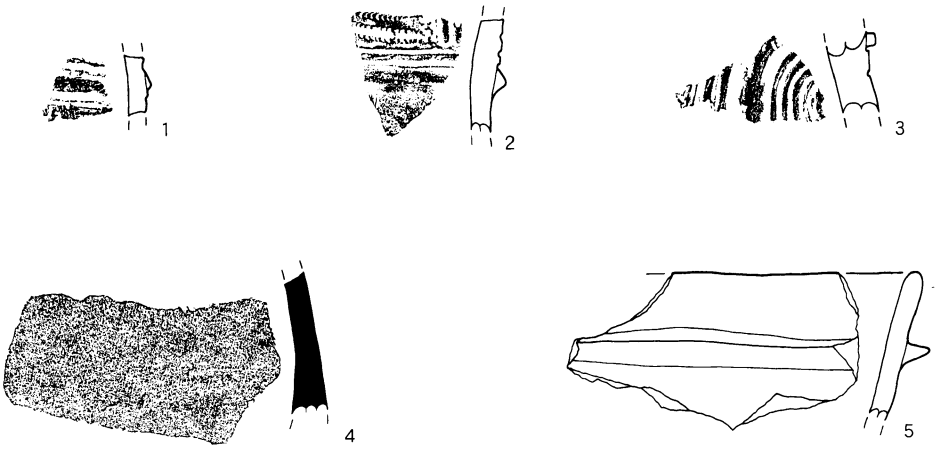
出土土器　１は横位隆線が施され側線として複列の押引き沈線が付す。阿玉台Ⅱ式。２は断面三角状の横位沈線により文様が区画され、文様内は平行沈線とペン先状工具による連続刺突文が充填される。勝坂２式。３は隆線により渦巻状のモチーフが描出され平行沈線が沿う。焼町土器。４は須恵器甕の体部下半。５は羽釜。10世紀前半の所産。なお、遺物写真は14ページに掲載した。



原之郷後原遺跡



トレンチ配置図　　S＝1：400



原之郷後原遺跡出土遺物　　S＝1：3

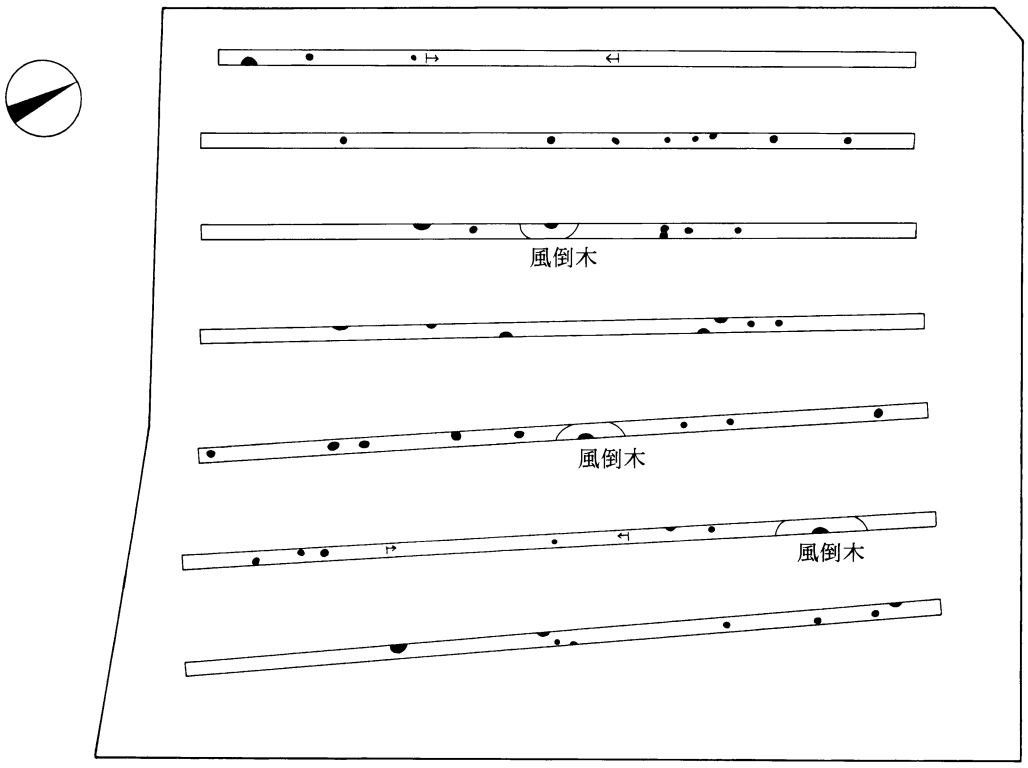
19―3　旭久保Ⅲ遺跡

①所 在 地　富士見村大字原之郷字旭久保712番　　③調査原因　駐車場用地造成

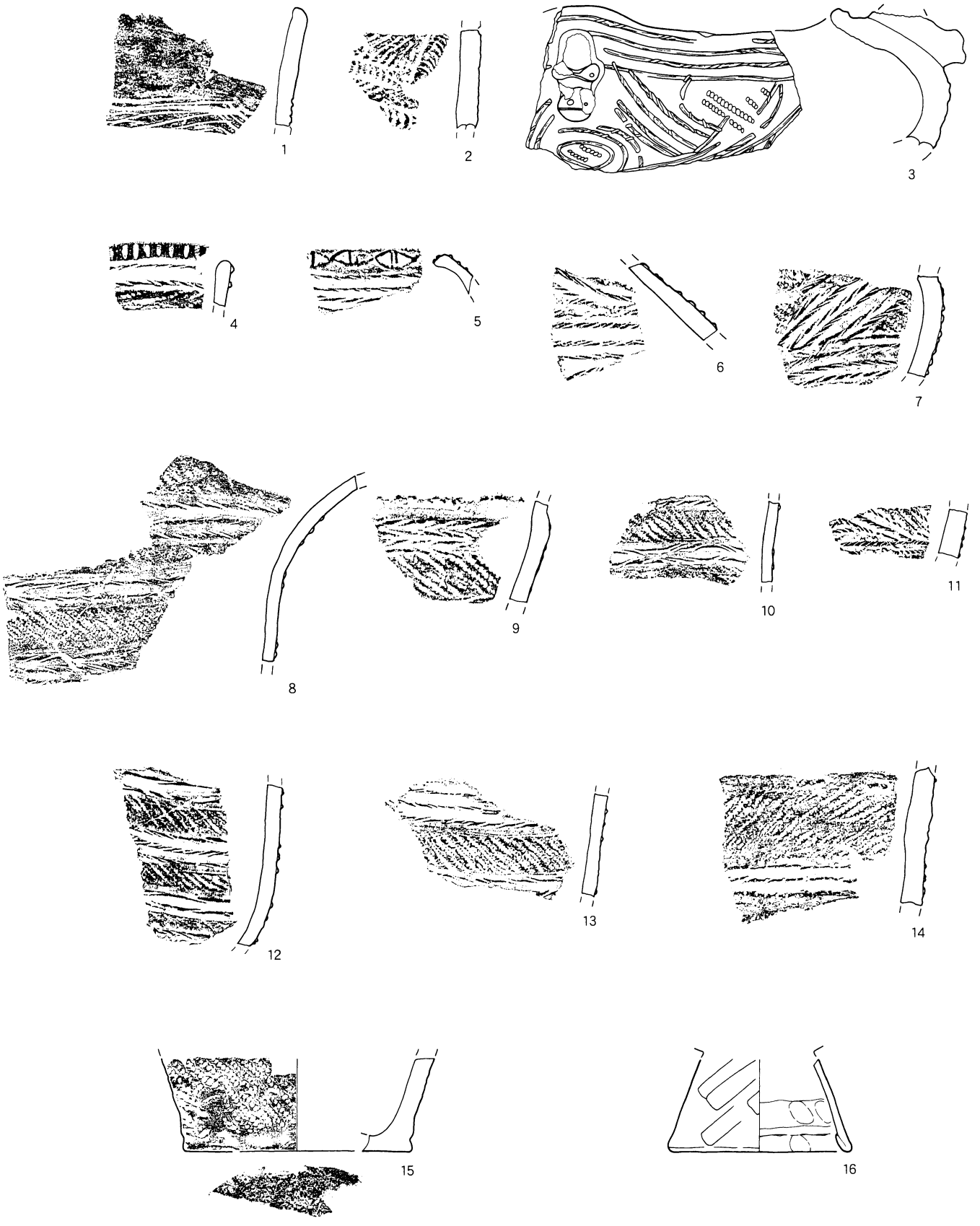
②調査面積　337㎡（開発面積2,928㎡）　　④調査期間　平成19年８月８日～10日

旭久保Ⅲ遺跡は、富士見村大字原之郷字旭久保に所在し、緩やかに傾斜する沖積台地上の旧利根川左岸に位置する。崖下と遺跡との比高差は約10mを測る。トレンチは南北７本設定し、表土除去を行ない土層の堆積状況を観察しながら遺構確認面まで掘削し精査を行なった。その結果、現地表下約90cmから時期不詳の柱穴や土坑、風倒木が検出された。試掘調査の結果を基に協議を行なったところ、盛り土による施工であり十分な保護層も得られることから、現地保存が可能と判断された。

旭久保Ⅲ遺跡

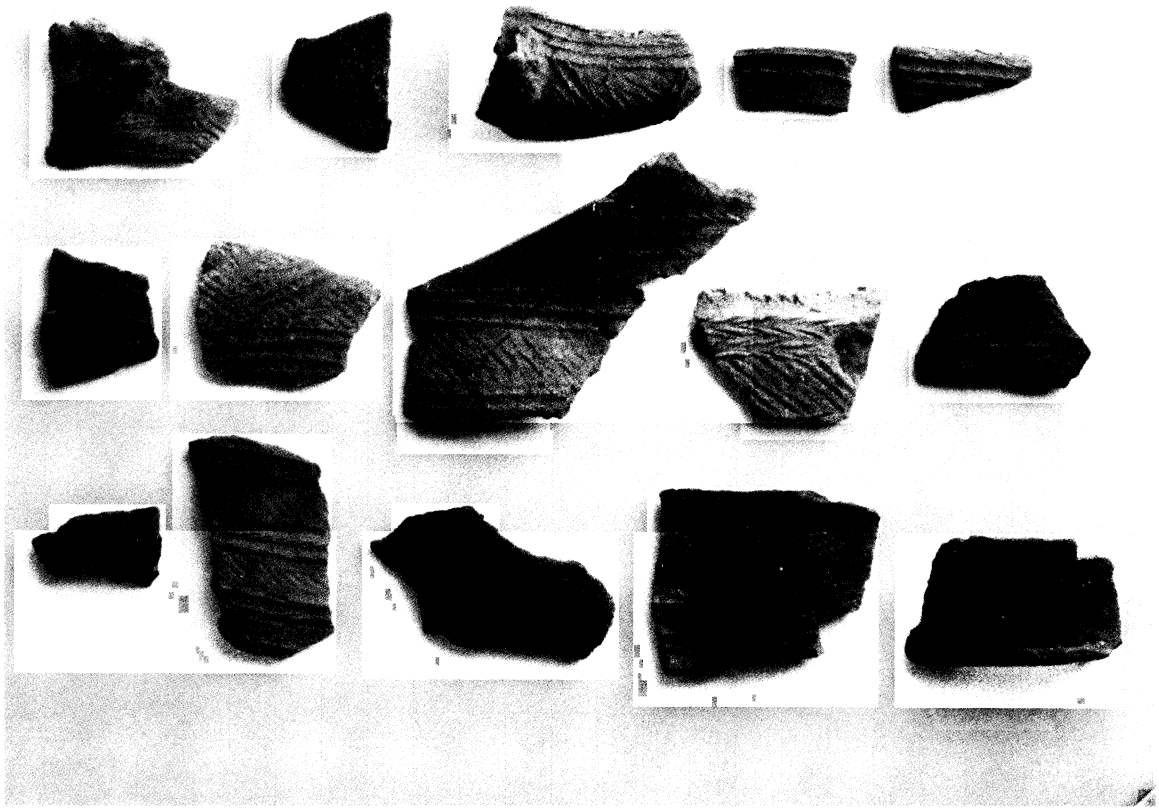


トレンチ配置図　　S＝1：500



旭久保Ⅲ遺跡出土遺物　　S＝1：3

出土土器　1は半截竹管状工具により平行沈線で菱形状のモチーフを描出する。2は半截竹管状工具による平行沈線後に爪形文を付す。3は緩やかな波状口縁を呈し、大きく内湾する。横位のRL縄文施文後に細い粘土紐による浮線で文様を描出し、獣面把手を添付する。4は口唇部に刻みを有する口縁部片。横位浮線文の下に縦位のRL縄文。5は口唇部に浮線により楕円文を描出し、楕円文内に2対の浮線文を配する口縁部片。6から14は縄文施文後に細い粘土紐による浮線で文様を描出する。15は横位のRL縄文が施文される底部片。復元で底径12.2cmを測る。16は土師器台付甕。復元で底径10cmを測る。台部外面は篦削り後にナデ調整。台部内面は指ナデ、先端折り返しに指頭圧痕列を伴う。



旭久保III遺跡遺物写真

平成16年度から平成19年度
村　内　遺　跡

平成21年２月23日 印刷
平成21年２月25日 発行

編集・発行／群馬県勢多郡富士見村教育委員会
群馬県勢多郡富士見村田島866-1
電話　027-288-6111

印　　刷／朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社
群馬県前橋市元総社町67